



写真手前左の空地が中之島4丁目の拠点予定地。右が堂島川

国際競争力を持つ拠点を 大阪都心に

大阪・関西には、大阪大学、京都大学、理化学研究所をはじめ最先端医療の研究を行う大学や研究機関が集積している。また大阪は古くから「薬のまち」として栄え

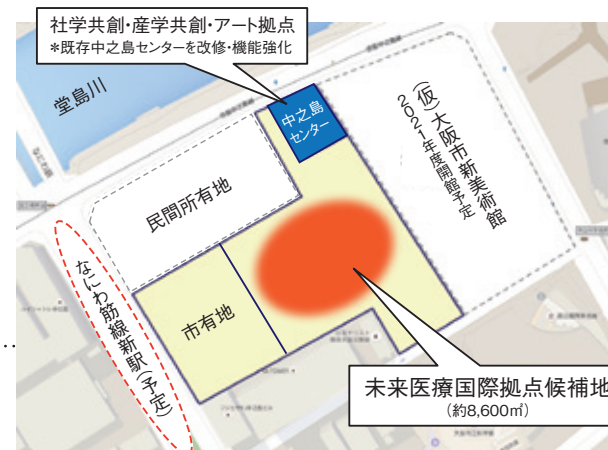
た道修町を有し、今もこの地に拠点を置く製薬企業は多い。

再生医療については、12年の山中伸弥・京都大学教授のノーベル賞受賞後、法整備も進み、研究から応用への加速が期待されている。そのようななか、中之島に再生医療の国際拠点を形成する、とい



©Westend61/Getty Images

未来医療国際拠点の形成予定地



うプロジェクトが動き出した。「ライフサイエンス分野で高いポテンシャルのある土地柄を生かし、国際競争力を持つ再生医療拠点を大阪につくるべきであると経済界から声が上がったのが、検討のきっかけでした」。大阪府の林さんはそう切り出した。

16年11月、大阪府・市と経済3団体（関西経済連合会・関西経済同友会・大阪商工会議所）による検討協議会が設置され、今年3月「未来医療国際拠点基本計画（案）」を策定（8月一部変更）。大阪府が所有する中之島4丁目の約8600㎡を予定地として、実現に向けて動き始めた。

技術の産業化と国際貢献

基本計画案では、再生医療をベ이스にしつつ、AIやIoTなど最先端の技術活用も想定。ニーズの変化や技術革新など医療を取り

中之島に未来医療国際拠点

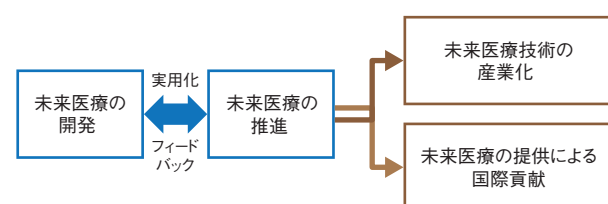
——再生医療の臨床研究から産業化まで一貫推進

大阪府・市と経済界は、大阪都心・中之島に再生医療をベースとした最先端医療産業の創出拠点を整備する。

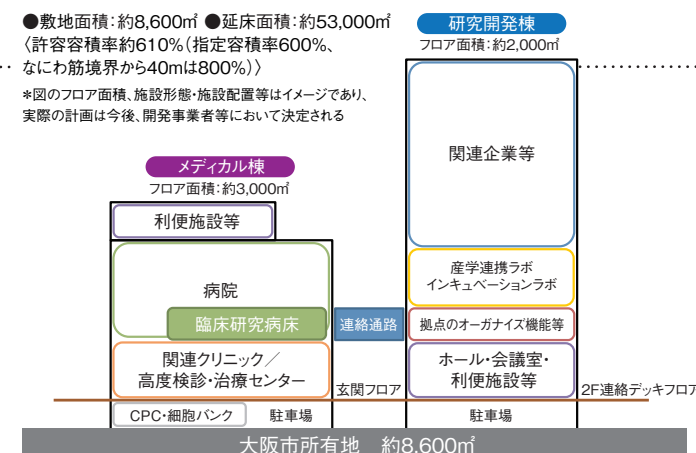
2018年3月「未来医療国際拠点基本計画（案）」を策定。

iPS細胞など再生医療関連の国際競争が激化するなか、新産業創出につながるプロジェクトの概要は——。大阪府ライフサイエンス産業課の林 雅彦さんと角田友道さん、大阪市都市計画局の西村俊昭さんに話を聞いた。

拠点がめざすビジョン



拠点の施設構成イメージ



巻く環境変化に即応し、次の時代
 に実現すべき新たな医療として
 「未来医療」という名称にした。
 拠点のコンセプトは、「未来医
 療技術の産業化」と「未来医療の
 提供による国際貢献」の二つ。研
 究機関・医療機関・企業の連携に
 よるオープンイノベーションを
 実現し、開発された最先端医療を
 実践しつつ研究にフィードバック
 するという循環によって、臨床研
 究から実用化・産業化まで一貫して
 進める。また高度医療を求める国

置も構想している。
 産業化に向けて、日本再生医療
 学会などと連携することで、大学
 や研究機関に蓄積された質の高い
 データを活用して、企業の治験等
 を支援する。ベンチャー育成につ
 いては、基礎研究は大学と一緒に
 行うことが望ましく、「ここには
 事業化につながる出口寄りのベン
 チャーが入ってもらいたい。ベン
 チャーが開発した製品が利益を上
 げ、そこで生み出された資金が起
 業家育成に還元されるような、医
 療産業創出のエコシステムを構築
 できれば」と林さん。

中之島モデルを世界に

日本の再生医療産業は動き始め
 たばかりで、市場に出ている再生
 医療等製品は数点に過ぎない。法
 律が整備され技術もあるのに、産
 業化の面ではまだ弱い。その状況
 を、中之島でブレイクスルーした
 いという思いもあるようだ。
 再生医療で使われる細胞等の製
 造や輸送には、特殊な機器や技術
 など、さまざまなサポーティング

内外の患者の受け入れや、最適な
 医療機関へつなぐ窓口の役割も担
 い、最先端医療による国際貢献に
 も寄与する考えだ。

医療産業創出のエコシステム

未来医療技術の産業化と国際貢
 献。このコンセプトを実現するた
 め、まずは運営主体として「(仮称)
 未来医療推進機構」を立ち上げる。
 その設立準備組織の構成員を、今
 春公募した。構成員には公益的観
 点や拠点実現への覚悟が求められ
 たが、製薬企業をはじめ物流・金
 融など幅広い業種の企業が関心を
 示し、8月末時点で20社が参加し
 ている。

拠点となる中之島4丁目は都心
 の好立地で、31年地下鉄なにわ筋
 線が開業すれば関西空港や新大阪
 へのアクセスも向上する。基本計
 画案では、ここに、メディカル棟
 と研究開発棟の2棟を想定。メデ
 イカル棟には病院やクリニックに
 加え、再生医療に不可欠な血液や
 皮膚など原材料を入手・培養した
 ものをストックしておく「CPC・
 細胞バンク」の設置も考えている。
 一方、研究開発棟には再生医療関
 連企業や産学連携やベンチャー育
 成のインキュベーション施設の設

インダストリーのノウハウが求め
 られ、それも新たな産業につな
 がる。再生医療に関わるサプライ
 エンシステムを「中之島モデル」
 として構築し、海外にパッケージ
 で売り出したいと語る。

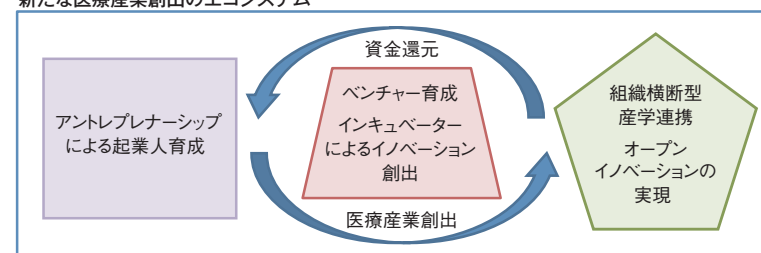
持続可能な人類の未来へ

今後は大阪府がソフト面、大阪
 市がハード面を中心に担当して計
 画を進める。21年以降の施設オー
 プンに向け、まずは19年度中の機
 構設立をめざす。

この未来医療の拠点は、誘致が
 進む2025大阪万博のテーマ
 「いのち輝く未来社会のデザイン」
 を具現化するものと言える。さら
 に万博テーマの根底にある国連の
 SDGs（持続可能な開発目標）
 の「すべての人に健康と福祉を」
 「産業と技術革新の基盤をつくら
 う」といった目標とも関連深い。
 拠点が動き出せば、SDGsの目
 標達成に寄与することは間違いな
 い。人類の未来に貢献する未来医
 療の拠点実現に、一段と期待が高
 まる。【

再生医療の実用化・産業化等の拠点に備える機能

新たな医療産業創出のエコシステム



サプライチェーンシステム(中之島モデル)

